

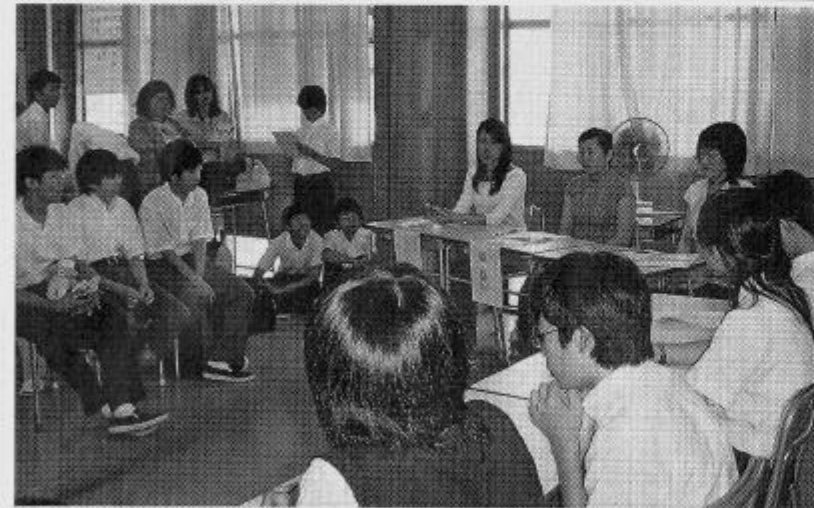
シンポ「アジアの未来について」

# 中学生が研究成果披露

## 須磨学園 留学生招き意見交換

中学生らが自分たちの研究成果を発表したシンポジウム＝神戸市須磨区の須磨学園中

神戸大(神戸市灘区)で学ぶ外国人を招き、中学生らがアジア各国の未来を考えるシンポジウム「アジアの未来について」が十八日、神戸市須磨区の須磨学園中学で開かれ、同校の生徒ら約六十人が聞き入った。同校では二年生が今年十一月の東南アジアへの研修旅行前に「アジアの国々を知る」をテーマにインターネットなどをを使って学んでいるが、シンポジウムは文化祭を機に研究成果を披露するために開催した。



国や台湾、マレーシア、タイ、シンガポールの五

カ国の未来について自分たちで調べてきた内容を発表。神戸大で学ぶタイ人や中国人を招待して意見交換した。

堤さのいさん(二四)＝高砂市＝は中国の「貧富の差」をテーマに発表。堤さんは多民族国家・中国の抱える貧富の差に着目して「アジアの明るい未来のためには中国がこれからどうなっていくのかが大きな鍵となる。貧富の差などの国内の問題を解決し、日本を含めたアジアの各国と手を取り合ってアジアの未来のために歩んでいってほしい」と意見を述べた。

終了後、堤さんは「日本人はしっかりと自分の意見を持って世界で前面に出ていかなければならないと思う」と述べ、中国人の張静宇さん(三三)は

「今回のシンポジウムが日中関係について興味を持つきっかけになれば」と話していた。